

## 2022年3月期決算発表(参考資料)

## 1. 業績の推移

(単位:百万円、%)

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	
	実績	実績	実績	実績	対前期増減率(%)
連結子会社	21社	19社	19社	18社	
営業収益	49,136	48,999	47,782	48,254	1.0
営業利益	1,687	974	1,503	1,314	△ 12.6
経常利益	1,756	1,058	1,629	1,431	△ 12.1
親会社株主に帰属する当期純利益	969	3,118	971	966	△ 0.5

営業収益は3期ぶりの増収  
営業利益、経常利益は減益に転換

【過去最高実績】 (単位:百万円)

営業収益	2019年3月期	49,136
営業利益	2019年3月期	1,687
経常利益	2019年3月期	1,756
親会社株主に帰属する当期純利益	2020年3月期	3,118

## 2. 次期の業績予想

(単位:百万円、%)

	2023年3月期			
	第二四半期累計	対前年同期増減率(%)	通期	対前期増減率(%)
営業収益	25,000	4.5	50,000	3.6
営業利益	678	19.9	1,720	30.8
経常利益	724	13.6	1,770	23.6
親会社株主に帰属する当期純利益	474	8.5	1,140	18.0

## 3. 経営成績等の概況

## 【2022年3月期の業績概要】

- ①トラックによる企業間輸送を主とする「輸送サービス部門」は「増収」
- ・特別積み合せ貨物運送事業における貨物輸送量は、第1四半期は前期と比較し増加傾向となったものの、第2四半期以降は、度重なる緊急事態宣言の発出等の影響で経済活動の停滞が続いたことで、低調に推移した。
  - ・貸切事業の輸送量は、「配車センター」や「阪神港湾センター」にてコンテナ貨物等の配送に積極的取り組んだ結果、大きく増加した。
- ②商品保管や物流加工を行う「物流サービス部門」は「増収」
- ・愛知県大口町に小牧物流センター(2社協業)を開業、商品の保管から配送までの一貫物流サービスの取扱量の拡大を図った。
  - ・巣籠り関連商品である部屋着や日用雑貨品、菓子類等の巣籠り関連商品の保管・加工業務は順調に推移した。
  - ・海外からのアパレル商品が、世界的なコンテナ不足等により、予定していた商品の入荷が遅れることもあり、期待したほどの伸長はなかった。
- ③大型商品等の個人宅配や引越しを行う「ホームサービス部門」は「減収」
- ・家電配送に関して、前期の特別給付金支給による白物家電を中心とした買い替え特需の反動もあり、低調な推移となった。
  - ・引越し業務は、上期は移動制限により減少した。下期は異動による引越しが増加したが、上期の減少分を補えるほどの伸びはなかった。

この結果、営業収益は、482億54百万円(前年同期比1.0%増)となり、3期ぶりの増収となった。利益面では、効率的な運行コースの設定や省エネ運転等に取り組んだが、燃料価格の高騰や、慢性的なドライバー不足により外注費用が大きく増加した結果、営業利益は13億14百万円(前年同期比12.6%減)、経常利益は14億31百万円(前年同期比12.1%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は9億66百万円(前年同期比0.5%減)となった。

## 【2023年3月期の取り組み】

当社の強みである輸送と物流サービスが一体となった総合物流を提供するための営業施策を着実に実行することにより、効率化と生産性向上をもって売上の拡大と利益率の改善を目指し、取り組む。

## 4. 有形・無形固定資産の設備投資と減価償却費の状況

(単位:百万円、%)

	2022年3月期		2023年3月期	
	実績	対前期増減率(%)	予想	対前期増減率(%)
設備投資	2,909	△ 36.8	2,473	△ 15.0
減価償却	1,918	6.0	2,011	4.9

※ 主な設備投資の状況(車両を除く)

## 【2022年3月期実績】

エスラインギフ 川口支店 荷扱所(2期工事): 3.5億円  
 エスラインミノ 倉庫新築: 1.6億円  
 エスラインギフ 戸田センター(旧戸田支店改築): 0.8億円  
 エスラインギフ 海老名支店(土地): 9.2億円

## 【2023年3月期予想】

エスラインギフ 海老名支店(建物): 12.9億円

以上